

平成 26 年度「提案公募型事業」申請書類(2)
< 受 託 申 請 書 >

ふりがな 団体名	かるしうむかんぱにー カルシウムカンパニー						
ふりがな 代表者名	ふきやかのか 葺屋香乃子						
募集期間 (該当を○で囲む)	○ 第1期 / 第2期						
事業の分野・テーマ (該当に●印・複数可)	【 ○ 】 心地よく安心な港まちで暮らす						公募要領の 「2委託対象 事業」を参照
	○ 【 △ 】 魅力的でにぎやかな港まちに集う						
	【 □ 】 みんなと港まちを創る						
提案事業名	遊びの倉庫「アジト 2014」						
希望金額=A ※5ページ・6ページ のAと同額を記入	3	3	9	2	0	0	円
期間 (準備～事業終了日)	平成 26 年 7 月 18 日 ～ 平成 26 年 9 月 1 日						

【提案事業の計画】 ※ 簡潔かつ具体的に記入してください。

(1) 事業の目的・見込まれる成果

上記で選択した事業の分野・テーマ(○・△・□)について、具体的にどのような目的を持ち、どのような成果を見込む事業であるか、詳細に記入。

夏休みを利用し、様々な遊びを通して非日常的で創造的なプログラムを子どもたちに提供することで、ものを作る楽しさや、皆で何かをするすばらしさを知ってもらうとともに、世代間(子ども・大学生・保護者)を超えた交流の場を作り出す事で港まちを盛り上げることを目的とする。
コミュニケーションの一形態としてアート・デザインという手段を用いる事で、子どもたちの多様な価値観を否定せずに創造性(発想力・想像力・表現力)を豊かにすることができる。
普段自分たちが集う港まちでアート・デザインといった非日常的で独創的なプログラムを行う事で、日常の生活では見えなかった新たな発見をしてくれる事を期待する。
また最近では地域住民同士のつながりの少なさが社会問題となっている。しかし未来の担い手である子どもたちが港まちで体験したことのない遊びをし、その場で対面する友達とふれあうことにより、将来ふるさとになる港まちにさらに愛着を持つことができ、子供達どうしの交流も活発になる。子供達は自己の可能性ある創造性を引き出し、更に魅力的でにぎやかな港まちのまちづくりに貢献できると考える。

(2) 事業の概要

子ども(主に小学生)、保護者参加型のアート・デザイン・遊びの複合プログラム(ワークショップ・レクリエーション)を実施する。
後半の2日間は、子どもたちが本プロジェクトの期間中に実施してきたテーマに基づいた遊びの屋台を立て、途中で全体ゲームを行いながら「祭り形式」で展開する短期イベント「アジト祭り」として実施する。

(3) 事業の具体的な内容と方法〔内容、実施日・実施場所、想定参加者等〕

1. 内容

毎年テーマを設定し、そのテーマに基づく遊びのプログラムを実施する。今年のテーマは「オリンピック」。2020年開催予定の東京オリンピックに向けて子供達にオリンピックと世界全体に興味を持ってもらうことを目的とする。またアジトは5日間開催し、プログラムは前半と後半に分かれている。1日目・2日目はオリンピックをテーマとしたオリジナルの遊びのプログラムを1日1つ又は2つ実施・展開する。4日目・5日目は子どもたちが運営する遊びの屋台を立てて自ら考えて作ったり動いたりする中で、子どもたちが満足感や達成感を味わえるようにする。「祭り形式」で展開する短期イベント「アジト祭り」として実施する。3日目はアジト祭りの準備日として設ける。

実施する個々のプログラムは以下の2つに分類される。

- a アート/デザインを遊びに変換させたプログラム
- b 既存の遊びにアート/デザインを付加させたプログラム

<前半2日間>

オリジナルの遊びのプログラムの実施。

今年のプログラムの一例

- ・自分だけの国旗作り: 1人一枚布を用意し、絞り染めをする。布が乾くまでみんなで世界の国旗を研究する。布が染まって乾いたらペンや絵の具でそれぞれ絵や模様をかいてもらう。それぞれの国旗が完成したら自分の旗として他のレクリエーション等でも使用。
- ・モザイク世界地図づくり: モザイクアートで世界地図を完成させる。
- ・世界のあいさつめぐり: 世界の挨拶を学びながら図鑑を完成させていく。図鑑は持ち帰れるようにしてアジトが終わったあとでも見返せるようにする。
- ・聖火リレー: 聖火を見立てたバトン(バトンの上に器を乗せ卓球ボールなどを入れて不安定にする)をバランスよく運びリレーのように手渡して競い合う。

<後半2日間>

アジト祭りの実施。アジト祭りは子どもたち自身が二日間にわたってブースを設営・運営するプログラム。子どもたちがグループや個人で自身のブースを持ち、その中で「くじ屋さん」や「雑貨屋さん」など子どもたちが作ったものや準備してきたものを用い屋台を営む。

そこではアジト通貨と呼ばれる疑似通貨を使用し、「〇〇屋さん」という非日常体験のなかで、集団間のルールやモラル、通貨のしくみを、楽しみながら身をもって学ぶことができる。

2. 実施日・実施場所(屋外で実施する場合は、雨天時の対応も記入してください。)

・実施日

8月18日(日)～8月24日(土)(予定)

・実施場所

拠点…空き店舗(未定) プログラム…港区全体 特別追加プログラム…港橋広場公園

※雨天時は雨天時プログラムを実施予定

実施場所は西築地コミュニティーセンターの予定。

ただし火曜日は休館のため火曜日のプログラムはまた検討する。

3. 想定参加者人数・参加者層

対象年齢: 就学前の幼児(年長)から小学生までの児童及び保護者

参加人数: 一日につき20人程度を予定としているが、限度は特に定めていない

(4) 広報手段

案内チラシを名古屋市の小中学校や公共施設(児童館、図書館など)に配布。
新聞、広報誌への掲載。

港区の保育園11校(539部)、港区の図書館2館(35部)、愛知県の報道機関20機関(20部)、児童館14館(310部)、その他100部以上、計約1000部1のチラシ印刷数を配布予定。

6/22には入稿し、7月には印刷を完成させ、7/13までに各施設に配布完了予定。

またチラシのラフ案は6/15に一度まち協さんに確認をしてもらう。

今年はホームページでの告知だけでなく、カルシウムカンパニーの公式アカウントを使い Twitter や Facebook 等の SNS を使った広報活動も7月から始めることを視野に入れている。昨年度の写真等を使用する際は子供達の顔が分からないものを使用するかモザイクをかける等の配慮をする。

(5) 事業のスケジュール(準備～実施～実施後の実施運営スケジュール)

実施期間:2014年8月17日(日)～8月23日(土)

期間中のスケジュール

～8月16日(土)	企画の会議/準備
8月17日(日)	搬入
8月18日(月)・19日(火)	各プログラム実施
8月20日(水)	特別プログラム準備
8月21日(木)・22日(金)	特別プログラム実施
8月23日(土)	搬出/反省会

プログラム日のスケジュール

09:00	スタッフ集合
09:45	参加受付
10:00	プログラム開始
12:00	昼食休憩・午後のプログラム準備
14:00	プログラム再開
16:00	プログラム終了/片付け
17:00	反省会/次回プログラ確認・準備

(6) 事業の運営体制(スタッフの役割・人数や委託外注の活用等による運営体制、地域との連携など)

本事業における担当編成

代表: 葺屋 香乃子
副代表: 野本 壮太 今井梨乃
広報: 加藤 彩華
会計: 伊藤 舞
連絡: 油田 紗藍
保健: 高井 栄美
他6名 計13名
(新入生はまだ人数にいれていない)

実施当日の運営体制

参加スタッフ10名のうちプログラム担当者2名が指揮を執り、1名が受付と保健に回り、残り7名が参加者約3人ずつをサポートする。
また当日のお手伝いとしてスタッフを数名依頼予定。

【事業のアピール】

次の各項目は審査基準と同じで、審査の判断材料となります。事業のアピールポイントを具体的に箇条書きで記入して下さい。(公募要領の12の審査基準の欄を参照してご記入ください。)

(1) 実現可能性

過去10年間の活力の実績や反省を踏まえ事業の準備を4月から始めている。各大学代表を中心に定期的に企画会議を重ね、スケジュール、企画の内容や予算等の計画を綿密に立てている。運営側の立場だけでなく、子どもたちの立場にもなって計画を見直しどのようにすればより楽しんでもらえるかを常に考えるようにしている。毎年恒例のイベントである為、地元の子どもや保護者、地域の住民への認知度も高く、街の理解を得て実施することができる。

(2) 積算の妥当性

過去の予算の見積もりや、過去の活動からの反省点を踏まえ、新たに必要となるもの、不必要なものを取捨選択し、適切な予算を算定した。また、再利用可能なものや、身近にある材料をなるべく利用するようにし、予算を押さえるようにした。

(3) 公益性・社会貢献性

子供たちの創造力、自立心、探究心を育むようなプログラムを考えた。将来の港区を担う子どもたちが港区を思い、親世代となったときに、その子どもたちを港区で育てたいと思えるよう、港区のつながりを深めることができる事業を創案している。

(4) テーマとの整合性

毎年恒例となったイベントであるため、将来の港区を担う子どもたちが、毎年港まちに集い、にぎわいをもたらすきっかけとなる事業である。また、夏休みに、学校、保育園、幼稚園とは異なるコミュニティで普段とは違う、学年を越えた交流を生み、子どもたちのコミュニティの輪が広がり、港まちのつながりが深まり、子どもたち自身の世界が広がる。そこでできたつながりが生涯を通して財産となると考える。

(5) 将来性

次世代を担う港区の子どもたちが地元イベントに参加し、まちのことを知る事で、好意を抱き、故郷を大切に想う気持ちが育まれる。そして後に、その子どもたちが親の世代になり、子どもへ、そしてまたその次の世代へと港まちを受け継ぎ繋げていく事業であるといえる。

(1) 支出の部

項目	金額(円)						
①外部講師謝金							0 円
②旅費交通費			6	8	7	0	0 円
③会議費							0 円
④物品購入費		1	3	0	0	0	0 円
⑤借上料		1	0	7	0	0	0 円
⑥保険料			1	2	0	0	0 円
⑦人件費							0 円
⑧委託外注費				8	0	0	0 円
⑨通信費				8	0	0	0 円
⑩印刷製本費							0 円
⑪事務費等				5	5	0	0 円
総支出合計=A (港まちづくり協議会からの委託契約金額合計) (1ページのAと同額かご確認ください)		3	3	9	2	0	0 円

※ 参加費を徴収する事業の方は、参加費で充当される予定の品目は入れないでください。

※ 参加費で充当される予定の品目は、(様式1)の【徴収される参加費に相当する事業費】に計上してください。

(2) 対象経費明細 ※対象経費明細のエクセル形式(様式2)の使用も可能です。

項目	経費の内訳 人数、単価、数量、回数等の明細を具体的に記入してください。
①外部講師謝金	
0 円	
②旅費交通費	スタッフ交通費(会議) 1人1日 580円×3人×5日=8,700円 (活動日) 1人1日 1,000円×10人×5日=50,000円 (活動日2日、祭り3日) (搬入・搬出) 1人1日 1,000円×5人×2日=10,000円
6 8 7 0 0 円	
③会議費	
0 円	
④物品購入費	プログラム費(材料) 10,000円×2企画=20,000円 アジト祭りプログラム費(材料) 30,000円 保険用品費等 救急用具(補給) 4,000円 清涼飲料水(粉) 700円×5箱=3,500円 氷 300円×5袋=1,500円 活動用備品購入費 スタッフ用ユニフォーム 1,200円×30枚=36,000円 浄水器用フィルターカートリッジ 3,000円×1個=3,000円 活動資料作成用紙代 500円×2箱=1,000円 活動資料作成用インク代 6,000円×1セット=6,000円 スタッフ昼食代 500円×10人×5日=25,000円
1 3 0 0 0 0 円	
⑤借上料	搬入・搬出用 2tトラック 10,000円×2日=20,000円 照明セットレンタル代 5,000円×1セット=5,000円 空き店舗借上げ料 50,000円 雨天時用施設 1日 8000円×4日間=32000円
1 0 7 0 0 0 円	
⑥保険料	ボランティア活動保険 30人×5日間 7,500円 ボランティア行事用保険 30人×5日間 4,500円
1 2 0 0 0 円	
⑦人件費	
0 円	
⑧委託外注費	
8 0 0 0 0 円	チラシ A4 両面カラー印刷 1,000部 8,000円
⑨通信費	
8 0 0 0 0 円	郵送費
⑩印刷製本費	
0 円	
⑪事務費等	
5 5 0 0 0 円	プログラム費(文具等) 5,500円
総支出合計=A	
3 3 9 2 0 0 円	1ページ・5ページのAと同額かご確認ください